

まちの話題

まちの話題をお寄せください!!
 総務課 広報広聴係 ☎75-2280 / FAX 75-2110



▲吉岡久孝担当常務より記念品贈呈の様子



▶青しまうり漬けの販売開始を祝ってテープカットする関係者

7月1日にたくさん館で『青しまうり漬け』発売開始式が行われました。

青しまうり漬けは、多久の伝統野菜である青しまうりを酒粕漬にした多久の特産物で、毎年7月1日にお中元や贈答品として販売が開始されます。

式の冒頭で、JAさが佐城地区の吉岡久孝担当常務が「今年は天候にも恵まれ、出来は良好です。多久の特産品としてアピールしたいです」と販売開始にあたりあいさつしました。

毎年5000樽（1樽3.5kg）の青しまうり漬けが、多久市だけでなく全国各地に発送されています。

武雄郵便局の今村知己総務部長は「歯ごたえ、風味が良く、お中元の定番として約1000個の青しまうり漬けをゆうパックで発送します」とあいさつ。ゆうパックによる第1号が出発しました。

青しまうり漬け発売開始式

風味あるふるさとの味をいかがですか？

6月29日、多久聖廟近くの聖光寺ハス池傍広場で二千年ハス観察会が開催されました。

大川内義章さんが代表を務める「多久二千年ハスを守る会」の主催で、杉谷昭先生（佐賀城本丸歴史館前館長）と野中寛應住職（聖光寺）によるハス開花までの経緯や種の出所地、出雲と多久の歴史的な結びつきについての講話がありました。

その後、質疑応答では「発芽や栽培のコツは？」など熱心に尋ねる参加者もありました。

梅雨の合間の日差しを浴び、より鮮やかさが増したこの日、唐津市から参加された60代の女性2人は「鮮やかなピンク色が綺麗」と話し、佐賀市から旅行雑誌を見て来訪された70代の夫婦は「昨年より株の丈が伸び、花が増えた」と優美な花に見入っていました。



▶今年も優美な花を咲かせた二千年ハス



◀観察会でハスの由来や栽培管理状況について質疑も行われた講話

聖光寺・二千年ハス観察会

古代への誘い〜今知る、二千年ハスの由来

7/9 Wed.

食育事業劇『元気っ子けん子ちゃん 野菜を食べて元気もりもり!!』



好き嫌いをなく野菜を食べることの大切さなど食育啓発活動に取り組むお多福エプロン隊の食育事業劇をのぞみ保育園で行いました。

お多福エプロン隊は食生活改善推進員の有志で結成され、会員数は7人。

劇では、けん子ちゃんとマルちゃんが、野菜やお肉などを『赤』、『黄』、『緑』のどれに属するかを分類し、野菜を食べることで元気で強い身体づくりにつながることを呼びかけました。その後園児らは、食育をテーマにした『なんでも食べる子の元気うた』の合唱や『健康カルタ』を通じて食育について楽しく学びました。

6/20 Fri.

足が「じんじん」するくらいおひざの上で聞かせてね!



映画「じんじん」上映実行委員会から幼児向け絵本27冊が市長へ手渡されました。「じんじん」は、絵本の作成を通じて親子の絆を深める内容で、2月に中央公民館で上映されました。

上映実行委員会は、多久市文化連盟、ほたる文庫、八ピたくらぶなどの団体が組織され、上映収益金はすべて多久市の子どもたちへの絵本の寄贈となりました。

メンバーの川原田知章さんは「親子での絵本の読み聞かせは、おひざの上で『じんじん』するまでお願いします(笑)こんな上映会を今後も企画したい」と話しました。